

映画大好き！ イラスト展

～ 工藤 元子 ～

No.2

映画が好きのイラスト展、また今年もお披露目の運びとなりました。
お好きだった作品があったら、懐かしく見て頂ければと思います。

6/13(火)～30(金)

「ベンジャミン・バトン～数奇な運命～」

ベジタブル カフェ 「ライラ」

札幌市中央区南2条西1丁目
DAIICHIYA RISE ビル1F
(地下鉄大通駅下車 ジュンク堂書店の裏)
☎ 200-1617

*火～土 11:00～19:00

*日 11:00～18:00 *休み/月曜



映画大好き！
編集部：工藤元子
おススメの
この一本！！

「希望を持つ」ことの大事さを教えてくれる
映画「ショーシャンクの空に」

今年も2回目となる「映画大好き！イラスト展」を開く運びとなりました。その中で特にお気に入りオススメ映画1本、ご紹介します。第67回アカデミー賞で7部門にノミネート作品「ショーシャンクの空に」。

■ストーリー／妻とその愛人を射殺した罪で劣悪なショーシャンク刑務所送りとなった銀行家アンディ。過酷な状況下をじっと耐え、やがて彼は自ら持つ能力と不思議な魅力で受刑者達の心を掴んでゆく。ある日、のちに親友になる調達屋レッドから小さなロックハンマーと女優のポスターを手に入れてもらう。そして20年の歳月が流れた時、彼の冤罪を晴らす重要な証拠を知る人間が現れるが…嵐の晩、アンディは姿を消す……。

1994年公開。第67回アカデミー賞で7部門にノミネートされたが・・・結局、同時期公開の「フォレストガンプ」に賞は全部持っていかれ、興行成績は全く振るわなかった。暗い「刑務所の話」など、観客は興味をもたなかったのだ。

しかし、翌年レンタル・ビデオになると人気ランキング「トップ」に。口コミによって高く評価され、どこのレンタル・ビデオ屋さんにも品薄となったほど。そして、今やあの第67回アカデミー賞を全部持っていた「フォレストガンプ」より人気のある作品となる。一体、なぜ「刑務所映画」が人気トップになったのか？

こんなシーンがある。
ある事件を起こしてつらい監禁房から戻り、それでも…
「人の心は石で出来ているわけでない。人には心にはもっているものがある、それは希望だ」と語るアンディ。ところが「希望が危険だぞ、この正気を失わせる塀の中では」と強く批判する親友レッド。

しかし、アンディが20年間かけて刑務所の脱走をやり遂げたことで、レッドの気持ちはガラリと変る。



後半、旅立つバスの中で
「国境を無事に越えられればいいが…親友と会えればいいが…太平洋の海が青くて

美しいといいが…
それが俺の希望だ」
レッドは新たな一歩を踏み出す。

この映画が人々に支持されているのは理由は、ストーリーに込められた「諦めないで希望をもつ」ということ。

人はだれにでも一つや二つの問題を抱えていたりする。仕事、家庭、病気、人間関係…。この映画から、ショーシャンク刑務所のあのオリを自分が抱える問題に見立ててしまおう。主人公と一緒に苦しみを感じ、でも根気強く希望は持ち耐えれば「可能性は見つけられる」と勇気づけられる。

原作に忠実にしたかったダラボン監督だが、「二人の苦しみを長時間見て、散々感情に訴えられた観客もあのシーンで報われる」と観客のために追加撮影した原作になかったエンディング・シーン!! このシーンは感動もの。

映画にも大変な時こそ観てほしい作品がある。「この作品は暗い海に浮かぶ灯台だ」と言われている。派手な場面の全くない「刑務所モノ映画」なのに静かに口コミは広がり、何回でも観たくなる名作となった。映画好きの人たちの多くが「好きな映画ベスト10」に入れているほどだ。

公開は1994年ですから、もうかなり前の作品となるが、内容は全く色あせず感動を与える。おススメの作品である。

(1994年公開、原作：ステヴン・キング、監督・脚本：フランク・ダラボン。出演：ティム・ロビンズ、モーガン・フリーマン)

